

31H 河村 真啓 32H 前 琴美 33H 九筈 穂美
 34H 松浦 咲稀 34H 坂本 啓明 36H 古田 優弥

■課題

今後、能登で事故が増加する

■解決策

信号機を設置する。

■現状

- ・能登で高齢化が進んでいる (図1)
- ・高齢者の事故率が高い (図2)
→今後能登で事故が増加する可能性が**大きい**
- ・能登の信号機が**少ない** (表1)

	信号台数(基)	面積(km2)	(基/km2)
能登	297	1,977.84	0.150164
石川	2338	4,186.05	0.558522
全国平均	4450	8,041.93	0.55335

表1 地域ごとの信号機の台数と面積の比較

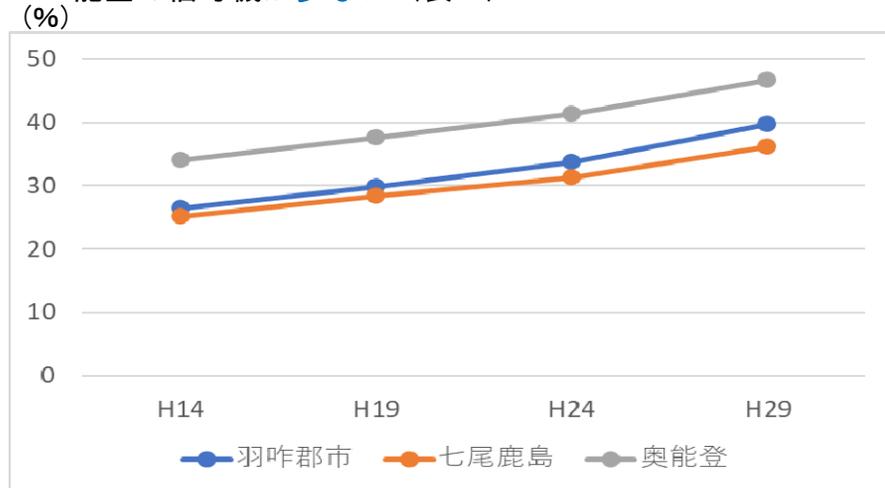


図1 能登での老年人口の推移

<http://toukei.pref.ishikawa.jp/dl/3387/h29nennreigaivou.pdf>より

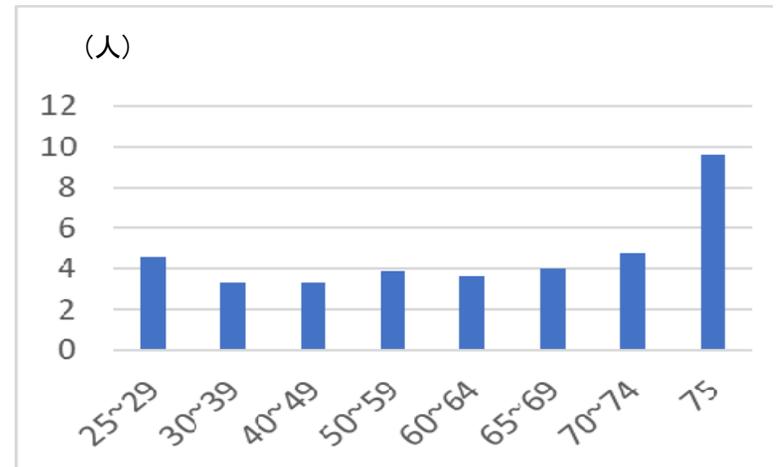


図2 第1当事者の年齢層別免許保有者10万人当たり死亡事故件数

http://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/seizou/supportcar/pdf/001_04_00.pdfより

■具体的内容と効果

1930年代から40年代における交通事故死者を状態別にみると、歩道や信号機の整備が十分でない中で、歩行中の死者が最も多くなっていた(交通事故との闘いの軌跡より)。

→信号の設置で事故が減少する

しかし費用がかかる…(1基当たり470万円)

- (i)お金を集める
- (ii)信号機を安くする

(i)お金を集める

- ・募金を行う
ただ募金を行っても集まらないのでは?
より募金をしてもらうために!
- ① 歩行者が募金したくなるような人物に手伝ってもらう
→子供(高校生)
- ② お金の使い道を明確にする
→信号機を設置することを説明する
- ③ お金のたくさん集まる場所で声をかける
→駅前、商業施設前
- ④ できるだけ高額を募金してもらえらる仕組みを考える
→透明な箱を用いる
- ⑤ 期間と目標金額を示す
→1億円

富山県で交通機関を残そうと募金を行い1億円得ることができた例がある(公共交通の存続及び活性化をめぐる地域社会の対応より)

(ii)信号機を安くする

- ・廃棄信号機を利用する
東京、愛知で実際に行われている。
→能登でもできるのでは?
廃棄信号機は、100万円で設置できる
1億円/100万円=100台設置できる



<https://www.axismag.jp/posts/2017/12/86746.html>

募金 + 廃棄信号機 →

信号機を **100基設置** することができる
能登の **事故率の増加の防止** を期待できる

